

## 愛知製鋼グループ 2024-26年度 中期経営計画のアップデート および 2030年ビジョンの利益目標の上方修正

愛知製鋼株式会社（代表取締役社長：後藤尚英）は、この度、愛知製鋼グループ2024-26年度 中期経営計画をアップデートしました。

今回のアップデートでは、昨年5月30日に公表した中期経営計画をベースに、稼働力強化を主眼に置いた成長戦略と財務・資本戦略を具体化し、2040年までの当社の目指す姿を示しています。

当社の強みである資源循環型のモノづくりに磨きをかけるとともに、成長が期待される分野・地域にリソースを投入・積極投資を行うことで中期経営計画の達成を確実なものにし、変化の激しい経営環境の中においても2030年の売上収益を4,000億円（既公表値比+600億円）営業利益280億円（既公表値比+80億円）と定め、新たな目標の達成に向けてグループ一丸となり邁進してまいります。

主要な取り組みは以下の通りです。

### 【概要】

#### 創業の精神を継承・発展させ、『環境に一番やさしい鉄屋』として社会に貢献

##### 1) マルチパスウェイへの貢献：良品廉価な鋼材・鍛造品生産とさらなるCN貢献

###### ①次世代製鋼プロセス

・資源循環型モノづくりの強みを生かし圧倒的な品質・コスト・納期を実現する次世代製鋼プロセスを構築。

###### ②鍛造設備の最適化

・鍛鋼一貫および粗加一貫（粗材～加工のワンストップ化）技術をベースとしたグリーン鍛造への進化。

##### 2) 需要地変化への対応：グローバルサウス（インド）事業展開

・今後さらなる成長が期待されるグローバルサウス市場（特にインド）において、当社のアイデンティティである資源循環型のモノづくりを展開し、環境負荷最小化および鋼材・鍛造品の安定供給に貢献。

##### 3) 社会課題へのソリューション提供：新技術・新商品の積極投入

###### ①ステンレス鋼の業務領域・付加価値拡大を通じて、事業拡大を目指す

・増え続けるインフラ老朽化への当社エンジニアリング技術によるソリューション提供

###### ②4つの価値創造領域でスマート社会への貢献を目指す

・電子部品：タイムリーな投資による増産体制の確立により、電動車向け製品の確実な生産対応と開発を推進

・磁石：マグファイン®改良品（耐腐食性と低価格）を投入、電池や家電へのソリューション提供

・センサ・金属繊維：GMPS（自動運転支援システム）のトヨタグループ構内物流での採用拡大

・鉄供給材：CG（カンキツグリーンング）病※対策として鉄資材のグループ販売網も活用した市場投入でソリューション提供

※細菌によって起こるカンキツ類が発症する病気で、葉が黄化し樹全体に進行すると生育不良となり、果実の成長も鈍り、枝枯れや株枯れを引き起こす。

##### 4) 基盤強化

①DX/情報基盤の整備・強化、物流改革：DX活用による経営判断の迅速化および、高効率輸送の追求。

②非財務資本の取り組み（人的/自然資本）：「人を大切に作る経営」「地球にやさしい経営」を愚直に実践

##### 5) 財務・資本戦略：成長戦略と財務・資本戦略を両輪で進め資本収益性の向上を図る

###### ①株主還元

・株主還元を強化し、ROE8%（2030年度）目標達成に必要な資本圧縮を段階的に実施。

###### ②キャッシュアロケーション

・事業成長と資本効率向上へ、2030年度までに戦略的成長投資（約1,000億）・株主還元（700億+α）を実施。

詳細資料：「[愛知製鋼グループ 2024-26年度 中期経営計画 アップデート](#)」